

教皇なしの四旬節？

イズコ神父

教皇なしの四旬節。

このタイトルを書くとき教皇ヨハネ二十三世の物語を思い出す。

一九六八年、年をとった教皇は、全世界の教会の責任を感じてなかなか眠れなかった。その時、薬よりこのような考えで助けられたようです。

「ヨハネよ、教会を導くのはあなたですか？聖霊ではないでしょうか？どうしてそんなに心配しているのですか？」このように考えると眠ることができたそうです。

二月十一日の教皇ベネディクト十六世の辞職の発表で、みんなビックリしました。その月曜日の晩に、一人の仲間から電話があった。教皇は辞任しましたと。

すぐ、インターネットを見るとそのニュースがどこでも広まっていました。そして、いろいろなコメントも集まってきました。

幸い最初から教皇自身の説明が現れ、本当の理由、本当の意味を知ることができました。簡単に、素直な心で教皇はこのように知らせました。

「私は繰り返し、神の御前で自身の良心の究明をした結果、高齢のためもはや教皇職を適正に遂行するために必要な体力が残っていないという確信に至りました。

多くの急激な変化に伴い、信仰生活にとって深刻な意味を持つ問題に揺るがされている現代世界にあって、聖ペトロの船を統治し、福音を告げ知らせるには、肉体と精神の力がともに必要です。

この力が最近の数ヶ月に衰え、私にゆだねられた奉仕職を適切に果たすことができないと自覚するまでになりました。

皆さんの愛と働きに感謝し、私の過ちを赦して下さいをお願いします。

よい牧者、最高の牧者であるイエス・キリストに教会のお世話をお願いします。

これからも、神の聖なる教会のため祈りを通して心を尽くして、仕えたいと思っています。」

マスメディアによると、いろいろなコメントが聞こえてきます。教皇の辞職の理由を探しています。

失敗したか、バチカンの中の争いがあるか、がっかりして逃げたいか。でも、教皇自身が素直に自分の辞職の説明をしたことを受け入れるべきでしょう。

もうすぐ、二月二八日に辞職になります。

四旬節の初めに教皇の話聞くために、多くの信徒がバチカン教会に集まりました。教皇ベネディクト十六世の最後の四旬節説教ですから、皆さんのためにまとめておきます。

「四旬節の道を歩み始めます。

復活祭の喜びへ導く道、死を滅ぼし、命の勝利をもたらす道。

ヨエル預言者の声が聞こえる。

「主は、言われる。

心から私に立ち返れ。」

心から、私たちの思いと行いの泉から、徹底的に、自由に。

しかし、そんな回心は、人間にできるでしょうか？出来るのです。

なぜなら、私たちの内に私たちからではなく、神の心からわき出る力があるからです。

それは、神の愛です。

：「主は、恵みに満ち、あわれみ深く、忍耐強く、慈しみにとみ、降したわざわいを悔いられる。」

から・・・ 回心しなさい。という呼びかけは、全ての信徒、教会に呼びかけられている。

回心の道を一人で歩むのではなく一緒に歩みましょう。「かれらの神は、どこにいるのか。と、なぜ諸国の民に言わせておかれるのですか。」教会の中の、分裂や一致に反する罪は、なんとひどいことか。

そして、共同体の信仰と生活の証は、なんと大切なことか。謙遜を持って、共同体の中の個人主義と争いを乗り越えましょう。

未信者と教会を離れた信者に、よい証しとなるのです。

マタイ福音書には、イエスは偽善を訴えます。人の誉れ、拍手を求めるふるまいを訴えます。

キリストの弟子達は、自分自身に仕えず、群衆の望みにも迎合せず、人によく見てもらおうなどとはしない。ただ、主にのみ、仕えようとする。謙遜に寛大な心で。

「そうすれば、隠れたことを見ておられるあなたの父が、報いて下さる。」

私たちの報いは、神の内にある。正しい人の報いは神ご自身である。

神さまと結ばれ、神の内に、平和やひかり、喜びを味わうことになる。

永遠に味わうことになる。

私たち自身の栄光を求めなければ、求めないほど私たちの証は、より強くなります。

愛する兄弟姉妹のみなさん、この私にとって難しい日々の間、キリストの教会であるとの確信は、私を支え、照らしています。

この時も、キリストは教会を守り、導くに違いない。

そして、皆さんの愛と祈りを心から感謝致します。

そのおかげで、心も体も力づけられます。

祈りを続けて下さい。

教会のため、私のため、次の教皇の為にも。

主は私たちを導くのです。

教皇なしの四旬節、しかし、キリストなしの四旬節はありません。